

令和4年度 事業報告

社会福祉法人 中津市社会福祉協議会

事業方針

令和4年度は新型コロナウイルス感染症との闘いが始まってからすでに3年目を迎えました。WHOがパンデミックの宣言を行った際、市民の間には感染に対する不安の声が広がり、社会活動が途絶えひとと人との繋がりや灯火が消えかけてしまいました。いままで何度も手が届きそうに思えたゴール、その度に揺り戻す感染の波であっても、地域ではさまざまな活動を通じて人との繋がりや関係づくりの取り組みが止まることはありませんでした。

そのような中、中津市社会福祉協議会では地域福祉の推進を果たすために、地域ニーズを把握し、市民の抱える生活課題への対応をすべく、基本理念である「心とこころ 人とひととの つながり」のもと、事業方針や重点目標を掲げ、各種事業を実施して参りました。

新たな取り組みで包括的な支援体制を円滑に構築・実践できる仕組みとして重層的支援体制整備事業を受託し、分野横断的に多様な支援ニーズに対応した支援体制を構築するため多機関で連携できる体制づくりとして市役所内の複数の部署と社協との支援連携会議の開催を行ういことで各部署での情報共有が図れるようになりました。

介護保険サービスでは入院や施設入所等により介護度が高い利用者が減少したこと、通所介護事業では大幅な収益の減少となり在宅サービスでは昨今にない収益の落ち込みとなりました。

また、特別養護老人ホームやすらぎ荘では新型コロナウイルスの感染対策を行ってきましたが、8月にクラスターが発生し多くの入所者様ご家族様に多大なご迷惑をおかけしました。現在は関係機関と連携を強化し再発防止、感染対策に努めています。

今後も地域福祉における社協の役割を果たすため、市民の皆さまに必要とされる社協を目指し、様々な事業を推進してまいります。

総務課

(1) 安定的な財源確保に向けた事業経営の推進

寄付金などの自主財源確保のための取り組みとして、ホームページやフェイスブック、広報紙等で随時更新を行い、社協の地域福祉活動への幅広い理解と協力を求めました。また、資金を集めるファンドレイジング制度の導入に向け、県社会福祉協議会で開催された研修会へ役職員が参加しました。今後も導入に向けて検討を行っていきます。

また、国の介護職員への処遇改善措置が臨時追加された介護職員処遇改善支援補助金が介護職員等ベースアップ等支援加算に移行され、引き続き加算算定の申請を行い、介護職員への処遇改善による雇用定着に向けた取り組みを行いました。

(2)人材確保のための積極的な取り組み

今年度も職員全員への管理職による面談や人事評価を行いながら、人員配置や採用計画の参考としました。また、ハローワーク、社協だより、エリアだより、ホームページ、エリアマガジン等への職員募集の掲載やネット求人、職員紹介会社の活用により人材の確保に努めました。

また、継続して続く人材不足について、特別養護老人ホームやすらぎ荘に、昨年度に引き続き特定技能1号【介護】外国人人材(フィリピン国・3名)を雇用し、現在6名の特定技能1号【介護】外国人人材の雇用に繋げています。

(3)デジタル技術を活用した業務効率改善(デジタル・トランスフォーメーション(DX))の調査研究

会計システムにおいて、会計クラウドシステム導入することで、各部署及び管理職、係長がリアルタイムに予算執行状況の確認が出来る様になったため、適切な予算管理等の環境整備及び業務効率化改善を図りました。

また、県の事業を活用し、特別養護老人ホームやすらぎ荘において、職員参画によるワークショップを通じて、既存業務を見直し、業務負担の軽減等に向けた取組を促進し、安全・安心なサービスが提供できるよう、ICT(インカム)等の導入に向けての検討を進めました。引き続き、各部署及び社協としての業務効率改善についての調査研究を進めていきます。

地 域 福 祉 課

(1)包括的支援体制の構築

令和4年度より始まった「重層的支援体制整備事業」(以下、「重層」)は既存のこれまでの地域福祉推進事業に新たな「多機関協働事業」「参加支援事業」「アウトリーチ等を通じた継続的支援事業」を加え、地域包括支援体制の構築への具体的スタートとなりました。まずは、事業理解のために行政や福祉関係機関を対象に「重層」を理解する研修会を開き、その後、事業推進の核となる「庁内連携」を進めるために市主管課と協力し、8月より月1回「支援連携会議」を開始しました。この会議には、市の各福祉部署だけでなく、医療、教育に関する部署の担当者と社協関係者が集まり、「情報共有」と「重複した福祉課題を抱えた相談事例について検討」をしています。年度末に構成員で会議の振り返りを行ったところ、どの部署からも、これまで身近にいても知らなかった他部署のことをこの会議を通じて知ることができ、さらに日常の連携も取りやすくなっているとの意見を頂きました。市と社協の行う総合相談の件数も徐々に増えており、今後は民間を含む連携体制づくりにもつながる布石となりました。

(2)社会参加支援体制の推進

「重層」の新規事業である「参加支援事業」を活用し、働きづらさを抱える人に対する社会参加の機会の一助として「就労の機会」の創出に努めました。企業の理解協力を得るため、企業側の立場から合同会社「は・た・ら・け・る」の武内氏に「就労支援アドバイザー」として就任頂き、就労の意欲はあるが経験や生活状況など何かしらの理由で働く機会を得にくい人が、柔軟に働ける訓練や就労の場の開発を協議しました。その後、多数の企業に受入の機会創出にご協力いただき、20メニューを作ることができました。また、広義での「社会参加」の課題として、長期にわたるコロナ禍の影響による代表的課題である「高齢者等の社会参加の減少による身体的な虚弱化」に対し、住民同士の寄り合いの場の

再開や週一体操教室の立ち上げ支援などを積極的に行い、参加推進に努めました。

(3)住民参画の地域共生社会を推進する地域福祉基盤体制の構築

人財育成として、毎年行っている全域的な「地域福祉講座」や「ボランティア講座」に加え、エリア単位での研修や講座の機会を多く設けました。三光・本耶馬溪・耶馬溪・山国エリアでは、住民による寄り合いの場活動に関わる人財育成として、レクリエーション技術を高める講座「遊びの学校」をエリアごとに開催しました。また、認知症地域支援推進員による認知症サポーター養成講座を学校や小地域などの範囲でも実施しました。生活支援体制整備事業では、豊田地区での「支え合いスタッフ養成研修」の実施とその後の継続的な住民座談会の開催、沖代地区での「お宝探し塾」など、新たな人財への意識啓発と育成に努めました。

(4)権利擁護支援体制の構築

成年後見支援センターとして 2 年目となり、成年後見制度の理解促進につながる事業を実施しました。具体的な効果としては、後見人等の候補者を決める「受任者調整委員会」とその前段階の「権利擁護支援方針検討会議」の二つの会議を連動させた運用がスムーズになってきたことで、個の状況に応じた権利擁護支援を多様な人で考える機会が増えました。さらに、成年後見制度や権利擁護支援についての理解が、福祉関係者の中でも異なっていたことから、成年後見制度について学習する研修会を開催し、特に身寄りのない人に対する権利擁護について共に学ぶ機会となりました。また第 6 期となる市民後見人養成講座を実施し、7 名が修了、6 名が新規で市民後見人候補者として登録しました。

(5)ICTの活用による事業の効果的運用と円滑化

包括支援センターが行なう「包括別地域ケア会議」を、引き続きオンラインで行なうことで関係者の移動の時間と精神的負担の軽減となり、スムーズな開催が定着しました。また、将来的に ICT を活用して対象者のアセスメントを実施する「オムロン」のモデル事業に参加し、経験する機会を得ることができました。認知症地域支援推進事業では、認知症の方を介護する「家族の集い」をオンラインで開催し、離れていてもお互いに介護についての想いを語り合うことが広範囲ででき、今後の運用の仕方を考える機会となりました。

在 宅 福 祉 課

(1) 山間地域への在宅サービスを継続的かつ安定的に行っていくための事業の再編

更なる人口減少が進むことが予想される山間地域において、継続的で安定的な在宅サービスを進めていく上で、事業を見直しており、令和 4 年度においては、居宅介護支援事業所(3 事業所)の再編を行い、耶馬溪と本耶馬溪にある事業所を統合し、山国と本耶馬溪の 2 事業所となりました。

今後も継続的により良いサービス提供を行うために必要な事業の見直しを行っていきます。

(2) 災害時や感染症における、BCP(業務継続計画)の作成

令和5年度当初からの策定に向けて、今年度は外部研修へ参加しながら事前準備を進めました。今後は法人全体と事業所単位での策定を今後進めていきます。

(3) 利用者様や家族に選んでいただける寄り添い型のサービス提供

寄り添い型のサービスを行う上で、職員の意識改革や組織を横断する連携強化が挙げられており、各事業エリアで開催されるエリア会議での各部門間の情報共有や専門職の部会や業務改善会議において、満足いただけるサービスを提供するために何が必要なのかを職員同士で話し合うことでサービスのブラッシュアップを常に行いました。

今後も利用者様や家族により身近な存在として寄り添うことができるための、ひとり一人の意識向上やチームワーク等の連携向上を目指します。

(4) 人材不足解消に向けた取組の推進

主に中山間地域で福祉事業を展開している事業者にとって、人材の不足は火急の問題であり、令和4年度に初めて中山間地域(本耶馬溪、耶馬溪、山国)における「ふくしのお仕事相談会」を市の協力を頂いて3回開催しました。

相談会では福祉の仕事に関心を持たれている方や実際に働きたい方などが来場され、中山間地域に拠点を持つ福祉事業所の職員が面談を行い、その中から数名が福祉事業所に採用されています。今後も人材不足解消に向けた取り組みを進めていきます。

福祉サービス課

(1) 三光児童館を拠点とした地域の子育て支援の推進

三光児童館は、地域子育て支援の拠点として、子育て中の親子が利用しやすいように絵本や玩具を準備したスペース設備等の環境整備や毎週木曜日開催の「子育てひろば」での交流などを充実してきました。11月20日(日)には、25周年記念行事として、地域の方々にご協力いただき、体験型のイベントを開催し、456名の親子連れ等の大勢の方々に楽しんでいただくことができました。新型コロナウイルス感染対策を行いながら年間延べ11,801名のご利用をいただいております。

(2) 放課後児童クラブ保護者及び学校等の関係機関との連携強化

各児童クラブのICT化整備及び保護者へのサービス向上のため、利用料の自動振替の開始やメール一斉配信の導入等を行いました。小学校との連携については、連絡メール受信による情報の共有や運営協議会への児童支援員の参加等を行ってきました。また、城井児童クラブでは、耶馬溪やちふく食堂と交流も開始されました。研修については、「児童クラブパワーアップワークショップ」等積極的に参加し、児童支援員の資質の向上に取り組んでいます。

(3) 生活支援ハウス・ホームで安心して生活できる支援の充実

コロナ渦のなか、面会等の制限が必要となるなど、入居者やご家族の方々にご協力をいただきながら、ワクチン接種の推進や感染予防対策に努めてきました。感染状況をみながら面会の緩和やレクリエーションの充実を行い、マイクロバスでの紅葉狩りや定期的な買い物外出・移動販売の利用などで買い物支援を行い、運動会や敬老会などの行事を開催して喜んでいただくことができました。また、避難訓練等を計画的に実施、大雨などの際は早めの避難をして安心していただけるように対策をしています。

養護老人ホーム 中津市豊寿園

(1) 積極的な入所者“生きがい”活動の推進

昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により行事の縮小や外出、面会の中止等、入所者は著しい生活上の制限を受けることとなりました。更には 8 月に入所者 1 名の感染が発覚しましたが早期に保健所等の指示に従い陰圧室の利用を講じたほか、最小限の職員で対応したことでその後の感染拡大はありませんでした。その後も感染対策として 11 月～2 月まで大分県より支給された抗原検査キットで全職員が週 2 回自主検査する等、ウイルスを施設に持込まないよう心がけながら業務にあたりました。入所者の更なる処遇改善を図る為、入所者の聴き取り調査を行い、結果を踏まえ個別処遇計画に反映し支援を行ってきました。

この状況下、入所者活動においても各種レクリエーション、ドライブ、リハビリ、居酒屋行事等の取り組みを積極的に行いました。

(2) 職員の知識・意識改革を推進

関係法令を遵守し、入所者の人権を尊重し快適な居住環境を提供するべく職員一同がプロとしての自覚を持ち、多職種間で連携を図りながらサービスの提供を進めてきました。入所者処遇の更なる支援を深めるため、一人ひとりと向き合いながら身体的ニーズだけにとらわれず精神的・環境的ニーズを踏まえたかかわりに努めていくほか、関係機関への広報活動を積極的に行い養護老人ホームの認知度を高め、地域の重要な資源として根付くよう展開してきました。また、各種研修・訓練(養護・防災・身体拘束廃止・高齢者虐待防止等)を実施し、職員の資質向上に努めました。

(3) 様々な場面における地域との“つながり”を推進

新型コロナウイルス感染防止のためやむなくふれあい祭りや鶴居小学校等、対面での交流行事を中止せざるをえなかった一方でオンラインを活用し防災すごろくや社会福祉施設等ビンゴゲーム大会、防災キャンプ等、新たな活動に取り組み、交流の幅が広がったことで豊寿園のことをこれまで以上に知って頂いたのではないかと思います。入所者においては外出自粛が続く中、ストレス軽減やフレイル予防を図るため、身体を使った活動を積極的に取り入れたほか、ドライブ等の機会を持ちながら ADL の維持に努めました。

中津市特別養護老人ホーム やすらぎ荘

(1) 健全で安定的な経営の推進

・今年度の収益は、中津市から指定管理の受託を受けて以来、最も低い水準の決算となりました。主要因として収入面でコロナクラスターが発生した 9 月以降利用率が低迷したことです。クラスターに伴う経費もかさみました。外国人採用に伴う経費も赤字の要因です。今回のクラスターから学ぶべきことが多くありました。今後は、地域の福祉ニーズに応えるサービスの質と量の維持向上を図るため、積極的に業務の効率化など多岐にわたるコスト削減方法を模索し、職員のコスト意識を高め、経費節減に努めます。

- ・質の高い支援をするためには、安定した経営基盤が必要です。定員稼働率の向上及び各種加算の取得に努め、安定した財源確保を図ります。

(2) 感染症・食中毒予防及び入所者・職員の健康管理の推進

- ・感染症・食中毒予防研修会については各 2 回実施し、豊寿園と共同で開催しました。
- ・施設系サービスにおいては利用者が集団で生活する場であり、その特性を踏まえた対応が重要であると考え、感染対策を徹底し、感染症の発生をなくすることが目標ではありますが、8 月末から 9 月中旬にかけてやすらぎ荘でクラスターが発生しました。発生から 4 日目に中津市立中津市民病院折田医院長から現地指導を受けました。クラスター終息後、中津市立中津市民病院感染管理認定看護師を招き意見交換を行いました。時の个人防护具(PPE)着脱方法などの実技を交え職員研修を行いました。
- ・職員の毎日の検温、また少しでも気になる症状があれば積極的に抗原検査の実施を行いました。また、入所者についても嘱託医が適宜抗原検査を実施することで職員が安心して業務に取り組むことが出来ました。
- ・職員の腰痛による休職、転倒により骨折が重なったことにより、昨年 12 月から朝礼時に腰痛予防、転倒予防体操を行っています。

(3) 地域とのつながりを推進し開かれた施設を目指す

- ・やすらぎ荘近隣の人口減少、住民の高齢化による地域のつながりの希薄化も深刻になってきています。また、今年度もコロナウイルス感染症の影響で施設のイベントが中止や、規模を縮小し施設内だけの開催となり、地域との交流ができていないのが現状である。そのような中、6 月に下郷保育所園児 24 人が室外で歌や踊りによる慰問、12 月に家族会による施設外回りの清掃活動、また、年末には耶馬溪ライオンズクラブにより門松の製作をしていただきました。

■令和4年度 事業報告

社会福祉法人 中津市社会福祉協議会

1. 法人会務の運営

法人の運営にあたり、理事会・評議員会・監事会を開催。
提案された議案については、原案どおりすべて承認。

1) 理事会

- 第1回 令和4年6月7日(火) 14時00分 場所 中津市教育福祉センター 多目的ホール
出席 12名 欠席 4名 監事出席 1名
第1号議案 令和3年度事業報告
第2号議案 令和3年度決算報告について(監査報告)
第3号議案 令和4年度第1次補正予算について
第4号議案 評議員候補の推薦について
第5号議案 評議員会の招集について
- 第2回 令和4年11月21日(月) 14時00分 場所 中津市教育福祉センター 中会議室A・B
出席 14名 欠席 2名 監事出席 2名
第1号議案 令和4年第2次補正予算について
第2号議案 評議員会の招集について
- 第3回 令和5年12月6日(火) 14時00分 場所 中津市教育福祉センター 多目的ホール
出席 15名 欠席 1名 監事出席 1名
第1号議案 令和3年度第2次補正予算について
第2号議案 規定の変更について
第3号議案 評議員会の収集について
- 第4回 令和5年3月6日(月) 14時00分 場所 中津市教育福祉センター 多目的ホール
出席 14名 欠席 2名 監事出席 2名
第1号議案 令和4年度第3次補正予算について
第2号議案 令和5年度事業計画について
第3号議案 令和5年度当初予算について
第4号議案 規定の変更について
第5号議案 役員等責任賠償保険契約について
第6号議案 評議員会の招集について

2) 評議員会

- 第1回 令和4年6月21日(火) 10時00分 場所 中津市教育福祉センター 多目的ホール
出席 25名 欠席 8名 監事出席 2名
第1号議案 令和3年度事業報告
第2号議案 令和3年度決算報告について(監査報告)
第3号議案 令和4年度第1次補正予算について
第4号議案 理事及び監事の選任について
- 第2回 令和4年12月6日(火) 10時00分 場所 中津市教育福祉センター 多目的ホール
出席 23名 欠席 10名 監事出席 1名
第1号議案 令和4年度第2次補正予算について
- 第3回 令和5年3月28日(火) 10時00分 場所 中津市教育福祉センター 多目的ホール
出席 23名 欠席 10名 監事出席 1名
第1号議案 令和4年度第3次補正予算について
第2号議案 令和5年度事業計画について
第3号議案 令和5年度当初予算について

3) 監査会

令和4年5月24日(火) 9時00分 中津市教育福祉センター 多目的ホール
結 果: 事業状況、収支決算状況とも特に指摘事項なし

2. 会費、寄付金及び共同募金

1) 会費(会員)

一般会費 56口 280,000円
特別会費 4,286口 4,286,000円
合 計 4,342口 4,566,000円

地区	一般会費		特別会費	
中津	—	—	56口	280,000円
三光	1,476口	1,476,000円	0口	0円
本耶馬溪	901口	901,000円	0口	0円
耶馬溪	1,158口	1,158,000円	0口	0円
山国	751口	751,000円	0口	0円
計	4,286口	4,286,000円	56口	280,000円

2) 寄付金

香典返し 243件 8,741,000円
 一般寄附 75件 4,273,859円
 合 計 318件 13,014,859円

地区	香典返し		一般寄附	
中津	98件	3,371,000円	65件	4,076,959円
三光	25件	485,000円	2件	25,000円
本耶馬溪	31件	895,000円	3件	43,900円
耶馬溪	54件	2,435,000円	2件	103,000円
山国	35件	1,555,000円	3件	25,000円
計	243件	8,741,000円	75件	4,273,859円

3) 物品寄付

車輦（ダイハツミライース） 1 台 932,750円
 ギフトカード 1 件 18,800円
 WEBカメラ・ヘッドホンセット 1 式 60,000円
 米 100 kg 15,000円
 介護用品 1 件 70,000円

物品寄付額（相当額） 5 件 1,096,550円

4) 中津市共同募金委員会への協力

赤い羽根共同募金 19,387件 8,332,415円
 歳末たすけあい募金 19,501件 5,774,744円
 合 計 38,888件 14,107,159円

募金種類	赤い羽根共同募金		歳末たすけあい募金	
戸別募金	19,379件	8,145,103円	18,953件	3,423,727円
街頭募金	0件	0円	1件	8,389円
法人募金	1件	21,453円	511件	2,043,114円
職域募金	3件	149,321円	3件	2,758円
イベント募金	0件	0円	0件	0円
その他募金	3件	16,536円	33件	296,756円
預金利息	1件	2円	0件	
計	19,387件	8,332,415円	19,501件	5,774,744円

[戸別募金内訳]

地区	赤い羽根共同募金		歳末たすけあい募金	
旧中津市内	15,077件	6,337,873円	14,651件	2,650,057円
三光	1,467件	616,140円	1,467件	264,060円
本耶馬溪	904件	379,680円	904件	162,720円
耶馬溪	1,191件	500,010円	1,191件	214,290円
山国	740件	311,400円	740件	132,600円
計	19,379件	8,145,103円	18,953件	3,423,727円

- ・大分グルメ散歩募金（大分県共同募金事業）112,760円の売上げがあり、その内21,453円を募金協力として頂きました。
- ・期間外募金37,060円（自動販売機手数料：37,051円、銀行利息：9円）については、R 5年度計上。

5) 中津市共同募金委員会への協力（災害義援金）

なし

合 計

円

合 計

0円

3. 住民主体による小地域ネットワークの推進

1) 寄り合いの場支援

住民が主体的に、住民同士の交流・関係づくり・介護予防を目的に行われている場づくりを支援

中津市全体	95ヵ所	寄り合いの場の種類・説明
地域サロン	6ヵ所	地域の中の民家や空き家等を活用して主体的な拠点を整備し、開催回数も週1～12回で、日常生活に密着した寄り合いの場
広域型サロン	6ヵ所	小・中学校区の範囲で、いきいきサロンの広域版である「交流型」と生きがいややりがいをテーマとした「活動型」
いきいきサロン	83ヵ所	自治区や集落等の小地域で、高齢者等を対象にしながら、月11回程度住民同士の交流の場として実施

※R 4年度 新規寄り合いの場：いきいきサロン2ヶ所（北原グレープサロン・町丈サロン）

2) ネットワーク構築支援

○地域福祉ネットワーク協議会の組織状況 (地区内の地域福祉推進活動)

No.	校区 地区	組織名称 (校区ネッ ト)	発足 年月日	定例会	事務局会 議等	令和4年度の主な動き	助成 金
1	南部	南部地区ネットワーク 協議会 ぽけっと	H18.10 ↓ H24.4	年3回	毎月1回	・情報紙の発行・総会及び定例会の開催・事務局会議の開催 ・北部校区地域福祉ネットワーク協議会立ち上げ準備会参加 ・第2層生活支援コーディネーターとの連携	○
2	北部	北部地域福祉ネットワ ーク協議会 (3つの「わ」 ネット)	R4.3			・R5.3.2 北部地区地域福祉ネットワーク協議会設立総会	○
3	小楠	小楠校区地域福祉ネッ トワーク協議会「OGUSU 友愛 2017」	H29.12	年4回	毎月1回	・情報誌の発行・総会及び定例会の開催・事務局会議の開催 ・部会長会議の開催・部会活動の推進	○
4	豊田	「生き生き・豊田」	H22.12	年1回	-	・総会の開催・遊びの広場 (交流行事) の開催※公民館と共催	○
5	沖代	沖代校区ネットワーク 協議会	H18.9 ↓ H21.4	年3回	毎月1回	・情報紙の発行・総会及び定例会の開催・事務局会議の開催 ・認知症に関する研修会開催 ・第2層生活支援コーディネーターとの連携	○
6	大幡	大幡福祉の会「輪」	H20.1	-	-	・第4次地域福祉活動計画策定を期に、事務局メンバーの交代を行 う。令和4年度は、組織再編を中心に活動。	-
7	三光	ふくしの里「ややま」	H31.3	年3回	毎月1回	・情報紙の発行・総会及び定例会の開催・事務局会議の開催 ・部会活動の推進・防災研修会の開催 ・第2層生活支援コーディネーターとの連携	○
8	山国	源流の郷やまくに福祉 の会	H22.10	年2回	年2回	・総会及び定例会の開催・事務局会議の開催 ・第2層生活支援コーディネーターとの連携	○

○見守りネットワークの組織状況 (地区内の地域福祉推進活動)

No.	校区 地区	名称	発足開始 年月日	全体会	見守りネットワーク数	令和4年度の主な動き	助成 金
1	本耶馬溪	本耶馬溪町ふれ愛ネッ トワーク	H6.5	随時	17 (自治区単位で構成)	・役員会の開催 (5月、3月) ・推進会議の開催 ※感染拡大により中止	○
2	耶馬溪	耶馬溪町地域見守り ネットワーク協議会	H23.5	随時	12 (79自治区を12団体で構成)	・役員会の開催 (6月、1月) ・合同会議の開催 (7月、2月)	○
3	山国	山国地区見守りネッ トワーク	R2.4	無	5 ※自治区で協議の上、団体を構成	・現在、5団体が活動 宇曾元・大勢見守りネットワ ーク見守りネットワーク「HARUDA」 くさもと見守りネットワ ーク肥前屋見守りネットワ ーク藤野木見守りネットワ ーク (※R4新規)	○

3) 各種団体等助成金

市内において社会福祉を目的として、各種団体やボランティアグループ等が実施する様々な社会福祉貢献活動や事業に対して助成

区 分	件数	助成額	助成内容
小地域福祉活動助成 (市)	34件	1,632,000円	見守り活動及び交流活動を行うために、自治区単位で組織されている団体への活動助成
小地域福祉活動助成 (社協会費)	27件	594,900円	見守り活動及び交流活動を行うために、自治区単位で組織されている団体への活動助成
地域福祉推進活動助成 (市)	6件	393,000円	地域の福祉課題の解決を目指すべく組織された地域福祉ネットワーク協議会への活動助成
地域福祉推進活動助成 (歳末)	5件	220,000円	地域の福祉課題の解決を目指すべく組織された地域福祉ネットワーク協議会への運営助成
地域介護予防活動支援費助成 (市)	6件	203,000円	介護予防につながる「交流」「食事」などの機会を継続的に実施している住民主体の活動 (寄り合いの場) への助成
ボランティア活動助成 (共募)	45件	1,325,000円	会員が自発的に明確な意思・目的をもって結成し、活動している団体への活動助成
ボランティア推進校助成 (共募)	9件	270,000円	小中高等学校が取り組む福祉活動・ボランティア活動に対する助成
寄り合いの場活動助成 (共募)	82件	1,023,000円	地域の寄り合いの場 (地域サロン等) への活動助成
新規立ち上げ活動助成 (歳末)	2件	80,000円	地域の寄り合いの場や地域福祉ネットワーク協議会) への活動助成
寄り合いの場活動助成 (社協会費)	60件	1,734,000円	地域の寄り合いの場 (地域サロン等) への活動助成 (三光・本耶馬溪・耶馬溪・山国)
住民型有償サービス活動助成 (共募)	10件	1,200,000円	住民主体の在宅福祉サービス (家事援助・身体介護等) 団体への活動助成
一般公募助成 (共募)	3件	380,000円	高齢者・障がい者 (児)・子ども・防災など事業への助成 (1団体上限34万円)
見守り配食活動助成 (社協会費)	2件	85,092円	一人暮らし高齢者等への配食サービスを行う団体への活動助成 (民児協本耶馬溪、山国)
公民館助成 (寄付金)	14件	210,000円	校区 (地区) 公民館を対象に、地域福祉の拠点や活動の連携を図る目的として助成
民生委員児童委員活動助成 (寄付金)	15件	1,009,590円	共同募金 (企業募金) 実績に基づき助成
自治委員活動助成 (寄付金)	15件	1,742,582円	共同募金と歳末たすけあい募金 (戸別) 実績に基づき助成
合 計	335件	12,102,164円	

4. 相談機能の強化による在宅福祉サービスの充実

1) 障がい者福祉サービス事業

障がいをもつ方に対して、ホームヘルプサービス及び訪問入浴サービスを実施

①居宅介護事業 (家事援助)

実利用者数 4名 延利用回数 356回 延活動時間数 368時間

本耶馬溪	2名	本耶馬溪	200回	本耶馬溪	167時間
耶馬溪	2名	耶馬溪	156回	耶馬溪	201時間

(障害区分: 身体0名、精神2名、視覚1名、知的1名)

② 居宅介護事業（通院等介助）

実利用者数 5名 延利用回数 25回 延活動時間数 43.0時間

本耶馬溪	5名	本耶馬溪	25回	本耶馬溪	43.0時間
耶馬溪		耶馬溪		耶馬溪	

（障害区分：精神1名、視覚3名、知的1名）

③ 同行援護事業

実利用者数 7名 延利用回数 236回 延活動時間数 246.0時間

本耶馬溪	5名	本耶馬溪	161回	本耶馬溪	154.0時間
耶馬溪	2名	耶馬溪	75回	耶馬溪	92.0時間

（障害区分：視覚7名）

④ 障がい児・者訪問入浴サービス事業（中津市内で一事業所のみ）（市受託事業）

実利用者数 なし 延利用回数 なし

2) 移動支援事業

自宅に引きこもりがちで障がいをもつ方の外出を支援するサービス（市受託事業）

実利用者数 7回 延利用回数 94回 延活動時間数 242時間

本耶馬溪	7名	本耶馬溪	94回	本耶馬溪	242時間
------	----	------	-----	------	-------

（障害区分：視覚1名、知的4名、精神1名）

3) 障がい児(者)余暇活動支援事業(てくてく)（市受託事業）

余暇を充実して過ごすための活動の場を提供することで、障がい児者の心身の健康増進と自立のための能力の獲得を目的とした事業

①-1 実施状況

開催回数	実利用者数	専任職員
11回	18名	3名

①-2 通常開催詳細（延べ）

利用者数	きょうだい児	保護者	ボランティア
95名	23名	77名	0名

①-3 てくてくまつり（年1回イベント）

利用者数	きょうだい児	保護者	ボランティア
28名	15名	32名	16名

※「てくてくまつりwith防災」

②-1 Summer てくてく実施状況（夏休み中の臨時開催）

開催回数	実利用者数	専任職員
中止		

②-2 Summer てくてく参加状況（延べ）

利用者数	きょうだい児	保護者	ボランティア
中止			

4) 障がい者ミニデイ支援（鈴の音）

障がいのある方とボランティアがお互いを理解し尊重しながら、共に地域の住民として交流できる場を当事者主体を前提にボランティアと共に運営。当事者の意志を最も重要とし、障がいのある方自身の自立と自主性の支援を目的に開催。

開催日	開催回数	利用者数	ボランティア数	内容
第3水曜	9回	実数 6名	実数 12名	寄せ植え、野外研修、講座、芸術鑑賞など コロナ感染拡大防止による中止2回（7月・9月）
		延べ数 38名	延べ数 82名	

5) 障がい者等生活環境整備事業

住環境により福祉サービスを利用できない等社会生活に支障が出ている障がいのある人やその世帯に対する片付け支援事業。

支援件数	利用世帯人員	地区	支援内容
0件			申請なし

6) 寝たきり高齢者見舞品贈呈事業

市内の寝たきり高齢者世帯に対して、日常生活上の在宅介護に係る負担軽減と便宜を図ることを目的として、歳末助け合い募金配分事業により、見舞い品（介護用品）を贈呈。

（校区）

南部	10件	大幡	7件	本耶馬溪	3件
北部	24件	如水	1件	耶馬溪	7件
豊田	2件	三保	3件	山国	2件
沖代	7件	和田	1件		
小楠	5件	今津	18件		
鶴居	12件	三光	14件		
合計				116件	

7) 福祉用具貸出事業

在宅での要支援者や障がい者等に対して、福祉用具を貸与し、本人や介護者の負担を軽減するなど、在宅生活の便宜を図る。

【電動ベッド】

・貸出総数	161台
・保有台数	176台
※内廃棄数	7台

貸出対応件数

中津	21件
三光	2件
本耶馬溪	1件
耶馬溪	7件
山国	8件
計	39件

【車椅子】

・貸出総数	110台
・保有台数	166台
※内廃棄数	10台

貸出対応件数

中津	87件
三光	16件
本耶馬溪	5件
耶馬溪	13件
山国	11件
計	132件

8) 福祉啓発イベント

～誰もが参加でき、お互いを認め合う地域へ～

コロナ前まで実施していた「みんなのふくしまつり」をコロナ禍を経て新たなカタチで継続して開催していけるよう「シン・みんなのふくしまつり」と題して「SDGs・ダイバーシティ・インクルージョン」をテーマに、性別や年齢、国籍や文化、価値観など多様性を認めあうこと、お受容しようにテーマを開催。

イベント名	開催日	参加者数	内容
シン・みんなのふくしまつり 「ごちやまぜnicoday」	11月6日	約400名	・ワークショップ（パラコードブレスレット・しめ縄作り） ・お絵描き水族館 ・パークヨガ ・ネイルアート（ウクライナの方による） ・ふるまい 珈琲（男塾受講者）、豚汁（東九州竜龍谷高校食物料）、おにぎり（地域サロン） ・バイオリン、ジャズの生演奏 など

9) 介護保険事業

①介護老人福祉施設事業（中津市特別養護老人ホームやすらぎ荘）

65歳以上で身体や精神上の障がいのため常時介護を必要とし、在宅での介護が困難な人が対象の事業。特に食事、排せつ、入浴など日常生活の介助や健康管理・リハビリ・療養上のケアを提供

（本入所）・・・定員 80名

サービス 実施状況	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	実人数	76名	76名	75名	76名	75名	73名	70名	71名	71名	70名	72名	76名	881名
	延べ人数	2,197名	2,271名	2,171名	2,252名	2,251名	2,041名	2,114名	2,064名	2,167名	2,167名	1,965名	2,287名	25,947名

②短期入所生活介護事業（中津市特別養護老人ホームやすらぎ荘）

冠婚葬祭や旅行などで介護ができないときに利用したり、介護疲れを防ぐために短期間の施設利用。食事や入浴、排せつなど日常生活の世話やレクリエーション、リハビリなどを提供

（短期入所）・・・定員 20名

サービス 実施状況	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	実人数	19名	20名	17名	24名	23名	16名	20名	23名	25名	23名	24名	24名	258名
	延べ人数	448名	483名	435名	527名	544名	441名	437名	423名	468名	498名	471名	421名	5,596名

③訪問介護事業

要支援者及び要介護者やサービス利用が必要な事業対象者に対して、ホームヘルプサービスを実施

実利用者数 101名 延利用回数 8,891回

本耶馬溪	40名	本耶馬溪	2,471回
耶馬溪	61名	耶馬溪	6,420回

④訪問型サービスA

比較的介護度が低い方（要支援1、2及び介護予防事業対象者）に対し、ホームヘルプサービスを実施

実利用者数 11名 延利用回数 276回

本耶馬溪	7名	本耶馬溪	191回
耶馬溪	4名	耶馬溪	85回

⑤通所介護事業

要支援者及び要介護者やサービス利用が必要な介護予防事業対象者に対して、デイサービスを実施

（通常型）開設日数 1,197日/年 延利用人数 19,333名 平均利用者数 16.2名

三光	299日	三光	2,764名	三光	9.2名
本耶馬溪	295日	本耶馬溪	4,899名	本耶馬溪	16.6名
耶馬溪	302日	耶馬溪	6,527名	耶馬溪	21.6名
山国	301日	山国	5,143名	山国	17.1名

⑥通所型サービスA（生きがい元気アップクラブ）

サービス利用が必要な介護予防事業対象者に対して、デイサービスを実施

（緩和型）開設日数 259日 日/年 延利用人数 1,708名 平均利用者数 6.6名

三光		三光		三光	
耶馬溪	259日	耶馬溪	1,708名	耶馬溪	6.6名

⑦訪問入浴介護事業

要支援者に対して、訪問入浴サービスを実施（中津市内で一事業所のみ）

実利用者数 20名 延利用回数 396回

⑧在宅介護支援事業

要支援者及び要介護者に対して、介護計画書を作成。

ケアプラン作成件数 4,431件 件/年

本耶馬溪	1,780件
耶馬溪	1,446件
山国	1,205件

10)高齢者生活福祉センター事業

高齢者に対して、介護支援機能、居住機能及び交流機能を総合的に提供し、高齢者が安心して健康で明るい生活が送れるよう支援。

入居者数（内ショート利用者）													
施設名/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
耶馬溪生活支援ホーム	10名	10名	10名	10名	10名	10名	10名	10名	10名	9名	9名	10名	
延べ利用者数	292名	310名	300名	310名	310名	300名	310名	300名	294名	279名	252名	310名	3,567名
山国生活支援ハウス	13名	13名	14名	13名	13名	13名	13名	12名	13名	11名	11名	13名	
延べ利用者数	390名	403名	396名	403名	403名	390名	364名	359名	359名	341名	308名	352名	4,468名

11)老人福祉施設養護老人ホーム運営事業

老人福祉施設事業（養護老人ホーム中津市豊寿園）

経済的理由、環境上の理由により自宅で生活が困難と判断された、65歳以上の自立した高齢者の方が対象の施設。

地域福祉を推進する社協として地域に開かれた施設経営を展開し、地域住民参加の活動を計画し地域交流を深め、

また入所者の生きがいにつながる取組みを積極的に推進

年間 在 所 状 況	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	日数	30日	31日	30日	31日	31日	30日	31日	30日	31日	31日	28日	31日	365日
年間 異 動 状 況	入所者実数	41名	41名	41名	40名	42名	42名	41名	41名	42名	42名	42名	43名	
	延べ人数	1,182名	1,228名	1,118名	1,102名	1,109名	1,127名	1,231名	1,200名	1,238名	1,225名	1,107名	1,257名	14,124名
年間 異 動 状 況	新規	他施設												0名
		医療機関												0名
		在宅					3名	1名		1名		1名	2名	8名
		その他												0名
	退所	社会復帰			1名									1名
		家庭復帰				1名								1名
		医療機関												0名
		他施設						1名			1名	1名	1名	4名
	入退院 (外泊)	死亡				1名								1名
		入退院(外泊)		1名	4名	4名	4名	1名	1名	3名	1名			19名
年間 異 動 状 況	入退院 (外泊)	退院(外泊)	1名		2名	3名	2名	2名	2名	2名	2名	1名		17名

12)地域包括支援センター事業

平成30年度より、業務の主たる拠点を耶馬溪（市耶馬溪支所内）に置き、三光～山国エリアを担当。なお、新型コロナウイルス感染症対策として、引き続き本耶馬溪にサテライト事務所を設置し、業務を行っている。（市受託事業）

(1)包括的支援事業

①総合相談支援業務

高齢者が、住み慣れた地域で安心して生活ができるようさまざまな相談に応じる

相談件数 1,948件

②権利擁護業務

高齢者が尊厳を持って生活できるように、虐待や困難事例への対応及び成年後見制度の活用

対応件数 72件

③包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

地域のケアマネへの指導助言や多職種連携によるケアマネジメント体制を作る

・包括的・継続的なケア体制の構築	51回
・地域における介護支援専門員のネットワークの活用	11回
・日常的個別指導・相談	113回
・支援困難事例等への指導・助言	15回
合計	190回

(2)介護予防事業普及啓発事業

高齢者を介護している方や地域支援者等 一般住民に対して、介護・福祉サービスや介護予防について普及啓発を図る

○介護予防に関する講話、講演会、相談会

実施回数	11回
参加者数	146名

○個別対応による普及啓発

実施回数	55回
人数	158名

(3)各種調査業務

①「食」の自立支援事業実態調査	調査件数	36件
② 住宅改修理由書作成		7件
③ 緊急通報用電話貸与事業実態調査及び相談		14件
④ 老人日常生活用具給付等事業実態調査及び相談		0件

(4)介護予防支援（計画作成）業務

要支援1.2、事業対象者の方に対する介護予防サービス計画作成に関する業務

相談件数	6,612件
作成件数	2,666件

(5)在宅医療・介護連携推進事業

①相談件数（分類）

全件数	内訳
94件	医療 62件、介護 4件、住民 28件、行政 0件

②会議等への参加

在宅医療・介護連携推進協議会	普及啓発ワーキング
2回	3回

(6)「元気！いきいき☆週一体操教室」立ち上げ継続支援事業

立ち上げに関する相談支援	立ち上げに関わった組織数	パンフレット等の配布
10回	0ヶ所	126人

(7)第9期介護保険事業計画に関するアンケート調査（3年に一度）

実態調査	19件
ニーズ調査	124件

13)認知症地域支援推進事業

平成27年度からの委託事業。地域包括支援センター内に認知症地域支援推進員を置き、認知症患者・家族に対する支援と認知症理解に向けた地域づくりを行なう。

(1)人員配置

・認知症地域支援推進員 1名 ・嘱託医 1名 ・オレンジコーディネーター 1名

(2)会議・研修会参加

認知症地域支援推進員等連絡会議（県主催）	5回
物忘れ対応支援チーム員会議	12回
認知症初期集中支援チーム検討委員会	2回
認知症の人と家族の会中津支部集い	11回

(3)認知症支援、普及啓発に関する各種取組

①普及啓発活動

・広く住民に対する理解促進

項目	回数	参加者数	説明
認知症サポーター養成講座	5回	43名	豊寿園、やすらぎ荘、山国中、三郷小、大王丸サロ
認知症講演会	0回		講師調整がつかず中止
認知症講話	4回	85名	サロン等にて認知症、認知症予防についての講話。
世界アルツハイマー月間活動	2回	—	イオン三光にて、リーフレットの配布。

②SOS声かけ模擬訓練

項目	開催日・場所	参加者数
SOS声かけ認知症サポーター養成講座	令和4年10月26日（金）三光	33名

③オレンジカフェ

・認知症の方、家族、地域住民、専門職等が集い、共に楽しんだり、理解し合い、つながり再構築の場として開催。

地区	三光	本耶馬溪	耶馬溪	山国	合計
開催回数	2回	2回	1回	1回	6回
参加者数（延べ）	40名	25名	13名	18名	96名

ストリートオレンジカフェみなと

認知症の方やその家族、認知症に関心のある方、また移動手段、外に出る機会が少ない方々の地域へ向かい、認知症についての相談や気分転換を図れる機会を作る。場所を定めず、開催することが可能となる。なお、屋外で開催するため、密を防ぎ、感染リスクを低減できる。

開催場所	三光	本耶馬溪	耶馬溪	山国	合計
実施箇所（延べ）	2ヶ所	3ヶ所	3ヶ所	2ヶ所	10ヶ所
参加者数（延べ）	32名	53名	41名	34名	160名

④認知症家族介護者の集い

三光・本耶馬溪・耶馬溪・山国地区内の認知症患者を介護している家族に対し、同じ立場の人同士での交流や意見交換の場をつくり、心のケアや介護負担の身体的精神的軽減を図る。年2回開催。

開催回数	2回
参加人数	47人

⑤認知症の人を地域で支える学習会

認知症になっても住み慣れた地域で生活できるよう、医療、介護との連携を図る機会を作り、認知症の理解を深め地域で認知症の人を支える仕組みづくりを図る。

参加対象者：三光・本耶馬溪・耶馬溪・山国地区内の医療機関、介護保険事業所、民生委員、警察、住民型有償サービス、市役所職員、地域包括支援センター職員等

内容

開催回数	2回	・山国「認知症の方の想いを知ろう」
参加人数	90名	・耶馬溪「人は人を幸せにするのです」

14）生活福祉資金貸付事業

低所得者や障がい者世帯に対し、経済的自立と生活意欲の助長促進を図り、安定した生活が営めるよう資金面の支援と、相談等を行う事業。申請のほとんどが緊急小口資金という現状。9月末をもって令和2年3月からの特例貸付終了。

資金種類		相談延件数	申請件数	決定	決定金額
総合支援資金	生活支援費	5	0	0	0円
	住居入居費	0	0	0	0円
	一時生活再建費	0	0	0	0円
	特例	135	53	53	63,380,000円
福祉資金	福祉費	28	4	4	507,000円
	緊急小口資金	164	41	41	2,851,000円
	特例緊急小口資金	222	77	77	13,500,000円
教育支援資金	教育支援費	9	2	2	689,000円
	就学支度費	9	2	2	564,000円
不動産担保型生活資金	不動産担保型生活資金	4	0	0	0円
	要保護世帯向け不動産担保型生活資金	0	0	0	0円
臨時特例つなぎ資金		0	0	0	0円
合 計		576	179	179	81,491,000円

※要保護世帯向け不動産担保型生活資金については、県社協が直接担当します。

15）総合相談支援事業

（1）心のケア事業（ほっとテラス）

カウンセラー（精神科医）による、不安や家族関係・人間関係など各種相談に応じる専門相談事業。

担当	相談形式	実績	
		相談開設回数	相談者数
橋本 眞子医師 （精神科医）	奇数月第3水曜 午後2：00～4：00 原則2名 （要予約）	7回	11名

（2）自立相談支援事業

何かしらの事情で生活困難な状況について継続的な相談支援をすると同時に、社会的孤立を防ぐ地域づくりを行なう事業。相談種別を限定しない総合相談窓口機能を持つ。物価高騰等による生活費の負担増から生活費の相談が増加

暮らしの総合相談支援実績

564件

相談種別（ケースにより重複）

病気、健康、障がい	住まい	収入・生活費	家賃・ローンの支払	税金や公共料金等の支払	債務	仕事探し、就職	仕事上の不安やトラブル	地域との関係	家族・人間関係
36件	39件	334件	4件	1件	10件	28件	10件	6件	5件

子育て	介護	ひきこもり・不登校	DV・虐待	食べる物が無い	生活支援	権利擁護	その他	合計
3件	16件	22件	5件	53件	40件	70件	19件	701件

※その他については、他機関との連携や不安の訴え等

16) 生活困窮者自立促進支援事業

(1) 家計改善支援事業

家計のバランスに不具合がおきている方に対して、収支プラン・貸付あっせん表等、短期から中長期の計画表を相談者と作成し、生活の立て直しと自立に向けた家計作りを行う
※コロナによる特例貸付が終了し、相談件数は落ち着く。しかし、物価高騰とのあおりを受けて、家計のバランスが取れなくなっていることで相談増。また、特例貸付の

相談支援者数	56名
プラン対象者数	2名

(2) 就労準備支援事業

就労への困難を抱えている方に対して、就労体験や就労訓練を行い、就労課題の解決を図る。また、中小企業家同友会や一般企業、ハローワーク、ジョブカフェ等との連携を図り、就労への一歩を踏み出すための取組を参加支援事業と組み合わせながら対応する。

対象者実人数	1名
プラン作成（再プラン含む）	1回
ハローワーク連携対象者数	17回

企業等との連携	1回	参加支援事業の概要、就労体験メニューの説明する会議を開催。
就労体験実施	1名	前年度に引き続き、対象者の就労経験や就労の幅を広げるため、合同会社「は・た・ら・け・る」との連携により、就労体験として洗車体験を1名の支援者に対して実施。

(3) 社会資源等研究開発事業

生活困窮者に対して不足している資源について調査・取り組みを実施。

①調査・研究

制服バンク検討のための調査	市内高校（5校）の教職員対象に制服・学用品のリユースについてアンケート調査を実施 調査数：85人（必要性ありが56%）
---------------	--

②資源開発（フードバンクnicoの取り組み）

○フードドライブ・・・毎月25日に食品を受付

他 イオン三光にてフードドライブ実施

本耶馬溪から山国までの15か所の郵便局にて実施

シンみんなのふくしまつりにて受付

実施回数	寄付者数（延べ）	品数	重さ
23回	362名	6,006品	5,640kg

○nicoイベント（食事の提供）

実施回数	提供数	(5月) nico×bosai・・・フードバンクの定着と周知 (12月) nicoキッチン・・・食事の提供（カレーライス）
2回	434食	

(4) ひきこもり支援事業

ひきこもりの人及びその家族に対する支援事業。家族支援や関係機関との連携により、つながる相談を実施。

①相談支援

相談件数

22件

対象者内訳	男性	女性	29歳以下	30代	40代	50代	60代以上	不明
	男性	女性	29歳以下	30代	40代	50代	60代	不明
	17名	5名	5名	3名	6名	2名	2名	4名

②家族支援

・家族交流会開催

情報提供の場とご家族同士の居場所づくりとして開催

開催回数	参加者数	（内対象者数）
1回	10名	7名

・ひきこもり研修会

ご本人とつながるために、ご家族や周りができることを考える講演会と、地域でひきこもり・不登校支援をしている団体の紹介を行い、つながる研修会開催

開催回数	参加者数
1回	53名

③広報啓発

地域包括支援センター・居宅介護支援事業所等支援機関に対して、チラシ配布等の情報提供と連携。

(5) 一時生活支援事業

ホームレスの人への緊急一時的な宿泊費と衣食の支援（現物給付）

実施回数	56回
実人数	15名

(6) 支援調整会議

困窮事業プランの検討の会議。毎月1回開催していたが、支援連携が始まった9月以降は随時開催。
市福祉政策課、生活保護係、障害福祉係等と社協で相談者の自立に向けてのプランについて協議

回数
7回

(7) その他の支援事業

①備品貸出し

日常生活に必要な備品（カセットコンロ、炊飯器、電気ケトル、自転車等）の一時貸出し

延べ回数	35回
実人数	32名

②食糧支援

食料がない方への緊急的な食糧支援（米、インスタント食品等）

延べ回数	223回
実人数	142名

17) 重層的支援体制整備事業

(1) 多機関協働支援事業

令和4年度新規事業。重層的支援体制整備事業のひとつ。複合的な課題を抱えた人や世帯の支援を行う際、多分野の関係機関との関係を作る調整の役割を担い、分野や年齢で隔たない包括的な支援体制構築を図る。

重層的支援体制整備事業研修会	1回	中津市の現状をふまえ、関係機関と重層的支援体制整備事業の考え方について研修会を行う。 参加者：58名（行政、各支援機関職員、市議会議員、社協職員等）
支援連携会議	8回	市役所にある機能を横にまたがる支援として活用することで、支援の幅を広げることを目的とする。また、社協や民間支援機関、地域とつながるための「核」となる会議体となっている。地域福祉計画の推進に関わるものとなっている。
補助ネット会議	9回	多機関協働事業に位置付けているが、平成27年度以降毎月1回開催。社協と『おおいた“くらしサポート事業”』に係るCSW及びスクールソーシャルワーカーや医療関係者等が集い、情報共有を行い、相談者に対する効果的な支援を行うための会議。

(2) 参加支援事業

R4年度新規事業。社会参加促進として「就労支援」をテーマに取り組む。
就労支援アドバイザーと協力し、働きづらさを抱える多様な人への参加の機会を作るため、企業の協力による就労体験のメニュー作りと相談支援を実施。

相談件数	8件
プラン対象	1名
調整会議	15回
対象者との面談	9回
開発メニュー数	20件

参加支援事業説明会議	1回	参加支援事業の概要、就労体験メニューの説明する会議を開催。 参加関係者：中津市役所 福祉支援課、福祉政策課、子育て支援課、商工・雇用政策課、中津公共職業安定所、ジョブカフェ大分中津サテライト、中小企業同友会中津支部
------------	----	--

(3) アウトリーチ支援事業

①くらしの総合相談窓口等のチラシ配布による広報活動や関係機関への働きかけにより、必要な情報が届き相談につながる。

実相談者数	34名
-------	-----

②各地域の住民会議の場に参加し、困っている人が相談窓口につながるよう、制度の周知と情報共有、広報活動等を行う。（事業説明、食糧配布支援等）

啓発活動回数	12回
--------	-----

③SOS発見につなぐ支援

○フードパントリー・・・困窮世帯への食糧配布
7月、12月、3月に実施

実施回数	5回
配布世帯数	169世帯

○ライスパントリー・・・困窮世帯へのお米配布
10月、12月、2月、3月に実施

実施回数	4回
配布世帯数	243世帯

18) 福祉サービス利用援助事業（あんしんサポートセンター中津）

認知症等高齢者や知的障がい者、精神障がい者など判断能力が不十分な方を対象に、日常生活を営むのに必要なサービスを利用するための情報の入手、理解、判断、意思表示を適切に行えるよう支援を行う。

・年間の支援回数	2,041件
・新規相談受付件数	93件

・新規契約 38件 ・解約者 26件

・契約者数（3/31現在） 140名
内訳

居住エリア別	中津	三光	本耶馬溪	耶馬溪	山国	その他※1	合計
	95名	9名	12名	10名	6名	8名	140名
居住状況別	在宅		施設（GH含む）		病院		140名
	80名		49名		11名		
世帯経済状況別	生活保護世帯			生活保護以外			140名
	49名			91名			

年齢別	65歳以上		40～64歳		39歳未満	140名
	106名		26名		8名	
障がい種別	76名		23名	18名	23名	140名

※1…契約している方が大分・日田・宇佐・豊前の施設等に一時的に入所・入院

※2…障がい疑われる人

・生活支援員登録数

19名

19) 成年後見事業

(1) 市民後見推進事業

今後の第三者後見人としての「市民後見人」の養成及び市民への成年後見制度周知等の取り組みについて推進（市受託事業）

① 会議の開催

事業項目	回数	内容
市民後見推進協議会会議	3回	学識経験者・弁護士・司法書士・社会福祉士・行政等と家裁主任書記官（オブザーバー）で構成する事業推進の協議会（5/26、8/19、3/13）

② 市民後見推進研修会の開催

開催回数	参加者数	内 容
1回	72名	成年後見制度の必要性や市民後見人に対する理解を深めていただくための研修会を開催。 第1部 市民後見人候補者による活動報告 第2部 講演「今日から始める人生会議～在宅医療の経験を踏まえて～」 講師 限診療所 院長 宮崎秀人 氏 事例発表「私の思いちょっとだけシート」について 事例発表者 高齢者相談支援センター三光園 末永 浩二 氏

③ 市民後見人養成講座の開催（隔年開催）

第6期生となる市民後見人養成講座の開催

実施期間	令和4年9月～12月	市民後見人に必要な知識と実務を学ぶため、さまざまな専門職による講義と事務を学習、対人援助を学ぶための施設実習 補講により、修了が見込まれる場合は翌年度に補講を実施
開催回数	12回	
受講者数	9名	
修了者数	7名	

④ 市民後見人候補者登録数（3/31現在）

40名

⑥ 市民後見人候補者フォローアップ研修の開催

今までの養成講座を修了し、市民後見人候補者として登録した人を対象に研修を開催。

登録更新には各種別1回以上の受講を義務付け。

講義	開催回数	3回	・高齢者の生活支援について ・高齢者虐待について ・ACPについて 等
	参加者数	44名	
実務	開催回数	2回	・実践報告 ・先進地研修 ・事例検討 等
	参加者数	33名	

※R4年度は養成講座プログラムにて代替可能とした。

⑥ 市民後見人の会との連携・サポート

事業項目	回数	内容
市民後見人の会 活動支援	15回	令和2年度に組織化された「市民後見人の会」に対し、必要に応じて助言や定例会への参加、会独自の勉強会への講師派遣等を行った。 役員会への出席10回、定例会への出席（講師派遣含む）5回

(2) 法人後見事業

法人として、後見人となり、被後見人の身上保護・財産管理を行う。

受任時の手続きは職員が中心に行い、日常的な後見事務は後見支援員を中心に実施。（市受託事業）

事業項目	数	内容
新規受任者数	2件	後見：1件 、保佐：1件 、補助0件
後見業務	23件	累計受任数46件の事務。これまで21名の被後見人が亡くなっている。 他、転居のため辞任1名、補助開始の審判の取消による終了1名。 後見：15件 、保佐：6件 、補助：2件
法人後見支援員登録者数	19名	令和4年度市民後見人候補登録者37名中。
後見業務に携わる支援員数	8名	法人後見支援員19名のうち、実際の後見事務担当者として任命した支援員数。

(3) 成年後見支援センター事業（中核機関）

令和3年度新規事業。成年後見制度の利用促進のために、利用に向けての相談支援や地域や関係機関に対する制度啓発、さらに適切な制度利用に向けての調整役を担う。

①相談対応

権利擁護に関する相談件数	165件	成年後見制度説明、申立てに関すること、家庭裁判所に関すること、日常生活自立支援事業に関すること、虐待に関すること、親亡き後の支援のこと など
うち申立支援件数	20件	

②会議の開催

権利擁護支援方針検討会議	開催回数	19回	生活に課題を抱える対象者について、制度利用を含めて、今後の支援方針を検討する会議。対象者に直接かかわる支援者で対象者の現状やこれまでの生活歴などを共有し、制度利用の必要性や時期、成年後見人等の候補者などについて協議。対象者の生活を見守る体制づくりも兼ねている。原則月1回開催だが、定例での開催以外に、既存の会議等も活用した。 *権利擁護支援方針シートを整備し、十分なアセスメントを行った。 *この場で制度利用が必要となった事案については、受任者調整会議に諮る
	協議件数	84件	
受任者調整会議	開催回数	4回	令和2年度末に策定された「中津市成年後見制度利用促進基本計画」に基づき、設置。原則2ヶ月に1回開催。市長申立てや本人・親族申立に関する事案などで受任者の調整が必要な事案について、専門職等で幅広く調整・協議。 構成委員：弁護士、司法書士、社会福祉士、医師、施設職員、行政、社協 計9名
	協議件数	8件	

③広報啓発

権利擁護に関する相談件数	29件	成年後見支援センターについて、どういう役割を担うところなのか、説明・周知を図ることを目的に、各種地域の会議や研修会等を活用して説明を行ったほか、既存の広報媒体（広報誌、ホームページ等）にて広報した。
--------------	-----	---

20) 介護保険要介護認定調査事業

要介護認定申請に基づき、認定調査員が自宅や施設へ訪問し、対象の方の心身の状況など調査（市受託）

調査名	R4年度
更 新	1,858件
新 規	447件
変 更	354件
合 計	2,659件

21) 放課後児童クラブ事業

就労等により昼間保護者のいない小学校に就学する児童に対して、授業の終了後における適切な保護及び健全な育成を図る。（市受託事業）

年間実施日数 1,402日開設

真坂	285日
山口	285日
秣	262日
樋田	285日
城井	285日

登録児童人数

91名

真坂	24名
山口	22名
秣	14名
樋田	19名
城井	12名

延利用児童人数

14,979名

真坂	3,887名
山口	3,272名
秣	2,298名
樋田	3,670名
城井	1,852名

5. 多様な人材による地域活動の推進

1) 住民参加型有償サービス事業（社協型）

自助・互助の精神を基調とした地域の“ボランティア的な”意識を持たれた人々と、低額有料（非営利）のサービスを必要として在宅で自立した生活を営む人々とが、地域に暮らす住民の構築をひとりひとりがお互いに助け合う社会を目指し、地域福祉の向上に寄与することを目的として実施。

社協運営登録者数

協力会員 6名 利用会員 7名 延利用回数 218回

2) 生活支援体制整備事業

地域包括ケアシステムの構築に向け高齢者の生きがいきり・介護予防の視点を持ち、高齢者ニーズを把握し、生活支援サービスをはじめとする資源開発や地域づくりを行う事業。（市受託事業）

(1) 生活支援コーディネーター設置

コーディネーター	人数
第1層生活支援コーディネーター	1名
第2層生活支援コーディネーター	7名

南部・今津・三光・耶馬溪・山国・沖代・豊田（新規）

(2) 生活支援コーディネート業務

- ・地域のニーズと資源の状況の見える化、問題提起

内容	第1層	第2層
いきいきサロン、地域サロン等へ参加し、高齢者の実態把握	86回	148回
住民型有償サービス定例会等への参加により高齢者の状況や課題を把握	33回	43回
元気！いきいき☆週一体操への参加による実態把握	94回	

- ・地域への働きかけ

有償サービスネットワーク協議会への参加	5回
地域福祉ネットワーク協議会会議への参加	66回
民生委員会等への参加	31回

- ・資源開発

住民型有償サービス立ち上げ支援	0回
担い手の育成（各種講座開催・協力）	12回

- ・ニーズに対するマッチング

生活支援サービスコーディネート	119回
-----------------	------

- ・その他

コーディネーター学習会の開催	11回
第2層生活支援コーディネーター活動情報誌の発行	4回

(3) 他機関との連携

地域ケア会議への参加	18回
------------	-----

(4) 協議体

第1層協議体	「生活支援・介護予防を考える会」～移動・外出支援について～	40名参加
	「生活支援・介護予防を考える会」～高齢者の就労について～	開催なし
第2層協議体	三光地区小地域ネットワーク協議会にて開催	15回

(5) 多機能型地域生活拠点づくり「よりあ」

地区	場所	よりあ	開催回数	参加者数（延べ）	内容
南部	小祝憩いの家	小祝よりあ	8回	9名	高齢者の閉じこもり予防の“場”づくり
	南部まちなみ交流館	諸町よりあ	2回	8名	街場に住んでいる独居または高齢世帯の居場所づくり
沖代	すずめの家	沖代よりあ	5回	41名	困りごと相談、情報提供の“場”づくり
今津	今津拠点	まったり庵	10回	24名	大勢の場所に行きづらいと感じている人の居場所、情報提供の“場”づくり
		わっはっは	1回	6名	多世代間交流の場、お話会など情報共有の場
耶馬溪	まーちゃん家	耶馬溪出張よりあ	11回	176名	耶馬溪地区のボランティア等お世話役の方が元気になる“場”づくり
山国	山国社会福祉センター	山国よりあ	7回	81名	「共食」をテーマに参加者と一緒に調理、会食を実施
三光	三光拠点	三光シニアおやじの会	9回	43名	退職後の男性の居場所づくり
豊田	豊田公民館	豊田よりあ	1回	10名	「ぶら〜り街の保健室」のミニ講座として開催。

(6) 会議等への参加・協力

中津市在宅医療介護連携推進協議会	1回
中津市在宅医療介護連携推進協議会 普及啓発ワーキング	2回
オレンジカフェ	7回
ケース会議	0回
SOS声かけ模擬訓練会議	1回

3) 中津市福祉の里づくりサポーター事業

65歳以上の中津市の介護保険第1号被保険者が、サポーター活動を行うことによって、本人の健康増進・介護予防・社会参加・地域貢献を通じた生きがいづくりを目的として実施。（市受託）

サポーター登録者数	474名
受入登録施設・事業所	123ヵ所
評価ポイント内スタンプ数	4,141

（高齢者施設、障がい者施設、児童施設、給食ボランティア、地域サロン等）

中津市福祉の里づくりサポーター事業情報誌「ふくサポNo.7」 発行 年 1回 700部発行

4) ファミリー・サポート・センター事業

子育て中の家庭を応援するために、子どもの預かり等の援助を受けたい方（おねがい会員）と預かり等の援助を行う方（まかせて会員）との相互援助活動に関する相談援助・連絡調整を行う。（市受託）

おねがい会員登録者数	130名	活動件数	310件
まかせて会員登録者数	93名	活動延時間数	517時間
両方会員	1名	お見合い件数	30件
まかせて会員調査4/7	75名	相談件数	217件
おねがい会員調査4/7	105名	会報発行No.2 4/7	180部
		会報発行No.3 9/7	185部

11月28日：令和4年度まかせて会員養成講座開催 受講修了者 7名

6. 福祉意識の高揚・啓発及び育成

1) 「わいわい福祉ひろば」事業

社協内にハートプロダクションを設け、市内近郊の視覚、聴覚、肢体の障がい者及び手話や点訳ボランティア、高齢者等をタレント登録し、市内の小学校等に派遣し、生活体験の講話や疑似体験学習を通し、障がい者の理解・高齢者理解などの福祉意識の啓発を図る事業。

【コース別】

【年度実績】

実施小学校数（校）	19校
年間開催回数（回）	57回
受講者数 児童生徒（人）	2,449人
受講者数 保護者（人）	66人

聴覚コース	15回
視覚コース	17回
肢体コース	14回
エルダーコース	9回
オレンジコース	2回
合 計	57回

1) わいわい福祉ひろば運営委員会の開催

福祉教育の推進に関わる事業の運営について、各コースから選出されたタレントが運営委員となり、多様な考えや意見を反映させることにより、さらなる事業の発展を目指す目的として、わいわい福祉ひろば運営委員会の設置及び開催。

運営委員	6名	わいわい福祉ひろばタレントで構成
開催回数	2回	5月：令和3年度事業報告、令和4年度実施希望の確認、意見交換 3月：令和4年度事業報告、令和5年度事業計画、研修会の振り返り、意見交換

2) 研修会の開催

講座・研修名	回数	参加者	開催時期	対象	概要
わいわいタレント研修会 「共に学び育ちあう福祉共育を目指して」	1回	20名	3月	わいわい福祉ひろばタレント	現在の教育現場の状況、またこどもの多様性や求められる配慮などについて学びを深め、今後の活動に活かすことを目的として開催。講師：mottoひょうご 栗木剛氏

2) 地域福祉・ボランティアに関する研修・講座の開催

No.	講座・研修名	回数	参加者	開催時期	対象	概要
1	住民型有償サービスマネージャー研修	2回	62名	6月 10月	住民型有償サービスマネージャー	住民型有償サービス団体でマネージャーとして活動していく上で必要な知識や情報共有を行う。 ①「対人援助の基本」講師：橋本真子氏 ②「中津市の高齢者施策について」講師：中津市介護長寿課
2	支えあいスタッフ養成講座	3回	48名	9月 10月	主に豊田地区住民	「お互いに助け合う気持ち」を基本とした住民同士の地域支え合い活動（ボランティア活動やサロン活動、住民型有償サービス活動など）の推進を目的に開催。 講師：①だんらんグループ 統括施設長 大田黒勝洋氏 ②グリーンコープふくしサービスセンターみどりの風 後藤文代氏 ③Mottoひょうご 栗木剛氏
3	生活支援・介護予防を考える会 「移動外出部会」	1回	40名	9月	移動外出支援部会メンバー	生活支援・介護予防を考える会は、高齢者の生きがいをづくり・介護予防の仕組み作りを目的として開催。今回は「移動外出部会」で、コロナ禍だからこそその買い物支援についてをテーマに開催。
4	あんさんくフォローアップ研修	1回	19名	11月	あんさんく登録者、今後登録希望の方	地域支え合い活動中に悩むことが多いと聞く「耳の聞こえ」について理解を深めることを目的に開催。 「聞こえと健康について」 講師：大分県言語聴覚士協会 副会長吉田玲子氏
5	沖代地区お宝さがし塾	3回	69名	12月 2月	主に沖代地区住民	自然な支え合いの発見と意識化をととして地域住民に住民主体の地域づくりに対する理解を深め、関心を高めることを目的に開催。講師：酒井保氏（ご近所福祉クリエイション）
6	人のつながり応援事業 「安全運転講習会」	1回	4名	12月	運転ボランティア	安全運転に関する意識の向上と事業内容の再確認を目的に開催。 講師：中津警察署 宇曾駐在所 主任 岡田政樹氏 ※運転ボランティアの交代（2名）
7	豊田地区支えあい座談会	4回	31名	12月 2月 3月	支えあい養成研修参加者、地域支え合い活動に関心のある方	支えあいスタッフ養成研修を行った後、継続的に座談会を開催。自分の住む地域に今ある住民活動を知り、今後更にどんな活動があったら良いか等、住民同士の地域支え合い活動の必要性について意見交換を行う場。

3) 社協だよりの発行

名称	年間発行回数	1回の平均部数	主な配布先	備考
社協だより なかつ	3回	34,850部	市内全戸	6/15、10/1、2/15発行
社協だより なかつ(点字版)	3回	25部	市内視覚障がいの方	同上

4) エリアの取り組み

(1) エリア広報紙(地域福祉情報紙)の発行

地区	名称	年回数	1回の平均部数	主な配布先
三 光	とんぼのめ	6回	2,000部	全戸、公共施設
本耶馬溪	にじのはし	6回	1,200部	全戸、公共施設
耶馬溪	めいぶる	6回	1,600部	全戸、公共施設
山 国	かかし	6回	930部	全戸、公共施設

(2) 各エリアの地域福祉の取り組み

No.	取り組み	回数	参加者	開催時期	対象	概要
三 光	小地域ネットワーク会議	15回	124名	1月 2月	サロン運営ボランティア	・R5年度のいきいきサロン年間計画の検討 ・地域内での困りごと、気になる人などの情報共有
	三光地区ボランティア入門講座「おっちゃん'Sクラブ」	1回	7名	7月	三光地区在住の地域活動未経験者	地域福祉活動に参加していない男性(主に退職後)を対象に簡単な料理を通して交流を広げ、地域活動につながることを目的として開催。講師：イタリアレストランシェフ 菅恵美子氏
	福祉ボランティア講座「遊びの学校」	2回	33名	6月 12月	三光地区地域住民	楽しみながら地域で活動できる人材を養成することを目的に、今年度は、社協で貸し出しているレク用具を活用した講座を開催。内容：1回目ガンパルーンボール参加者17名(2回目は1回目参加者を対象に養成講座を開催。参加者15名)
本耶馬溪	いきいきサロン買い物バスツアー	3回	41名	6月 10月 12月	サロン参加者	住民の困りごととの1つである買い物に対する支援と地域の皆さんと出かける楽しみを味わうことで生きがいやサロン活動の活性化につながることを目的に開催。
	福祉ボランティア講座「遊びの学校」	2回	32名	7月 2月	本耶馬溪地区地域住民	楽しみながら地域で活動できる人材を養成することを目的に、今年度は、社協で貸し出しているレク用具を活用した講座を開催。1回目：ベタンク参加者12名、2回目：ガンパルーンボールとレクリエーション参加者20名(講師 NP0法人ココフル 下釜純子氏)
	本耶馬溪地区「サロン交流会」	1回	12名	12月	サロン運営ボランティア等	サロン活動の活性化とサロンのお世話役同士のネットワークを構築することを目的に開催。食事をテーマに意見交換を行う。
耶馬溪	福祉ボランティア講座「遊びの学校」	2回	39名	8月 2月	耶馬溪地区地域住民	楽しみながら地域で活動できる人材を養成することを目的に、今年度は、社協で貸し出しているレク用具を活用した講座を開催。1回目：ラダーゲッター参加者17名、2回目椅子ヨガ・笑いヨガ参加者22名(講師：ヨガインストラクター本川絵里子氏)
	耶馬溪地区「サロン交流会」	1回	30名	1月	サロン活動者	サロンのお世話役同士の交流を目的に開催。今年度は助成金の説明を行う。
山 国	いきいきサロンネットワーク会議	3回	56名	7月 11月 2月	サロン運営ボランティア等	山国地区全サロンが一同に会し、サロン相互の連携と情報交換などによって、課題やニーズを共有し、サロン間での協力や助け合える関係づくり、リーダーの資質の向上を図りながら活力ある寄り合いの場活動の活性化を目的に開催。
	福祉ボランティア講座「遊びの学校」	1回	18名	11月	山国地区地域住民	楽しみながら地域で活動できる人材を養成することを目的に、今年度は、社協で貸し出しているレク用具を活用した講座を開催。内容：ふれあいマージャン(講師：Mottoひょうご 栗木剛氏)

(3) 安心生活支援事業(買い物支援事業：山国)

一人暮らし高齢者及び高齢者世帯等のうち、買い物が不便な方が登録。利用者の依頼に対して買い物代行し、自宅に届ける事業。

利用登録会員	28名
実利用者数	12名
買い物配達回数	351件
買い物支援を行った販売金額	566,876円
* 1回当たりの平均購入額 1,615円	

(4) 葬祭壇貸出事業

【貸出件数】

耶馬溪	0件
山国	2件
合計	2件

5) 事業所広報紙・新聞

No.	広報紙・新聞名	年間発行回数	1回の平均部数	主な配布先
1	やすらぎだより	12回	125部	施設入所者の家族と関係者
2	豊寿園だより	3回	100部	施設入所者の家族と関係者
3	ウテリー だより	4回	80部	利用者の家族と公共の施設(山国地区)
4	なのはな便り	4回	80部	利用者の家族と公共の施設(耶馬溪地区)
5	ひなぎく	3回	80部	利用者の家族と公共の施設(本耶馬溪地区)
6	さんこうデイだより	12回	30部	利用者の家族と公共の施設(三光地区)
7	児童館だより	毎月12回	570部	三光地区の小中学校と児童関係の施設
8	三光子育てサロンだより	毎月12回	50部	子育てサロン会員、市役所

7. 法人組織体制の強化

1) 職員配置状況（所属別）

①所属別 令和5年3月31日現在 単位：名

名称	正規	嘱託	非常勤	再雇用	計
総務課	10	4	5	0	19
地域福祉課	23	5	10	2	40
福祉サービス課	3	7	39	1	50
在宅福祉課	34	18	70	3	125
豊寿園	10	4	23	1	38
やすらぎ荘	42	5	22	5	74
計	122	43	169	12	346

②拠点別 単位：名

名称	正規	嘱託	非常勤	再雇用	計
中津市教育福祉センター	15	6	5		26
養護老人ホーム豊寿園	10	4	23	1	38
三光コミュニティセンター	12	8	23		43
放課後児童クラブ（5か所）		1	19		20
本耶馬溪総合福祉センター	12	6	12		30
市本耶馬溪支所	4			1	5
特別養護老人ホームやすらぎ荘	42	5	22	5	74
市耶馬溪支所	6			2	8
耶馬溪デイサービスセンター他	13	4	37		54
耶馬溪生活支援ホーム		1	7		8
山国社会福祉センター	4		1	1	6
山国高齢者生活福祉センター	4	8	20	2	34
計	122	43	169	12	346

※兼任している職員は、主としている事業所に計上

2) 法人内部における会議・委員会

1	課長会議	22	総務課
2	エリア会議	48	総務課
3	係長会議	3	総務課
4	やすらぎ運営会議	12	やすらぎ荘
5	高齢者虐待防止、接遇委員会	2	やすらぎ荘
6	認知症ケア委員会	4	やすらぎ荘
7	身体拘束未然防止委員会	14	やすらぎ荘
8	感染防止委員会	5	やすらぎ荘
9	事故防止委員会	11	やすらぎ荘
10	褥瘡防止委員会	6	やすらぎ荘
11	栄養管理委員会	12	やすらぎ荘
12	イベント・行事委員会	3	やすらぎ荘
13	ノーリフティングケア委員会	2	やすらぎ荘
14	喀痰吸引委員会	12	やすらぎ荘
15	キャリアアップ委員会	1	やすらぎ荘
14	看取りケア委員会	4	やすらぎ荘
17	主任・副主任会議	11	やすらぎ荘
18	各介護グループ、医務室会議	28	やすらぎ荘
20	居宅介護支援部会	4	在宅福祉課
21	通所介護部会	9	在宅福祉課
22	通所相談員部会	2	在宅福祉課
24	通所看護職部会	7	在宅福祉課
25	通所介護職部会	3	在宅福祉課

26	通所機能訓練部会	5	在宅福祉課
27	通所調理職部会	5	在宅福祉課
28	訪問介護部会	4	在宅福祉課
29	献立委員会	12	豊寿園
30	感染対策委員会（定例）	4	豊寿園
31	感染対策委員会（コロナ・臨時）	14	豊寿園
32	事故防止対策委員会	12	豊寿園
33	身体拘束適正化委員会	4	豊寿園
34	職員会議	12	豊寿園
35	広報委員会	7	豊寿園
36	正職支援員会議	5	豊寿園
37	支援員会議	12	豊寿園
38	夜勤支援員会議	2	豊寿園
39	支援員全体会議	1	豊寿園
40	ケース会議	35	豊寿園
41	看護職員会議	11	豊寿園
42	まつり運営委員会	5	豊寿園
43	運動会運営委員会	5	豊寿園
44	忘年会運営委員会	4	豊寿園
45	障がい者加算算定会議	1	豊寿園
46	次年度年間行事会議	1	豊寿園
47	事業計画・予算会議	1	豊寿園
48	防災会議	13	豊寿園

8. 各種地域福祉事業

1) 三光児童館事業

18歳未満のすべての子どもを対象とし、遊び及び生活の援助と地域における子育て支援を行い、子どもの健全育成に資するとともに児童館の適正な運営を図った。

1) 開館日数 263 日

児童館利用者数 11,801名

就学前児童	439名
小学生	10,633名
中高生	234名
保護者・ボランティア	495名

2) 三光児童館運営協議会の開催

日にち：令和4年3月29日（水） 書面により開催 委員数

3) 子育て支援拠点事業

	開催日数	参加者数	場所
子育てひろば	37日	558名	三光児童館内

4) 放課後児童対策子どもの居場所確保事業

5) 広報

名 称	発行月	月部数	備 考
児童館だより	毎月12回	570部	三光地区の小中学校と児童関係の施設、ホームページ
三光子育てサロンだより	毎月12回	50部	子育てサロン会員、市役所窓口、ホームページ
*フェイスブックでの動画配信6回			

9. ボランティア・市民活動センター事業

1) ボランティア・市民活動センター事業

ボランティアコーディネーターを設置し、ボランティア活動の発掘と支援のための相談、連絡、調整、育成、啓蒙活動等を実施。

①ボランティア希望・募集・相談

91件

②ボランティア登録状況

種別	団体数	団体会員数
団体Vo	141団体	3,262名
個人Vo		383名
計	141団体	3,645名

③ボランティア活動保険

ボランティア活動を行う個人・グループが安心して活動が行えるようボランティア活動保険の加入促進。

加入者数

2,654名

④ボランティア体験月間の取り組み

	夏のボランティア体験	春のボランティア体験	合計	
実施期間	令和4年7月～8月	令和5年3月～4月		
受入施設数	32か所	17カ所		
参加者内訳	一般	2名	1名	3名
	大学・専門学校生	2名	0名	2名
	高校生	50名	42名	92名
	小・中学生	13名	0名	13名
	参加者合計	67名	43名	110名

⑤ボランティア・市民活動センター運営委員会の開催

中津市ボランティア・市民活動センターが行う、ボランティア活動・市民活動の推進に関わる様々な事業の運営について、多様な立場の考え方や意見を反映させることにより、さらなる事業の発展及び市民に開かれたセンターを目指す目的として、中津市ボランティア・市民活動センター運営委員会の設置及び開催。

運営委員	10名	学識経験者、ボランティア活動者、当事者団体、地域活動者等で構成
開催回数	2回	8月：令和4年度事業経過報告、質問・意見交換 3月：令和4年度事業報告、令和5年度事業計画、質問・意見交換

2) ボランティア情報紙の発行

名 称	年回数	1回の平均部数	主な配布先
ボランティア・市民活動情報紙べんぎん	6回	5,750部	公共施設、自治委員、民生委員、ボランティアグループなど

3) ボラカフェの開催 ※R4年度新規

	回数	参加者	開催時期	対象	概要
ボランティアカフェ	2回	26名	10月 3月	ボランティア活動者、ボランティアに興味のある方	経験の有無に関わらず情報交換や交流を行いながらボランティア活動の活性化を図ることを目的に、ボランティア活動者やボランティアに興味がある方などが気軽に集える場として、コーヒーを飲みながら談笑し交流するカフェスタイルで開催。

4) 地域福祉・ボランティアに関する研修・講座の開催

No.	講座・研修名	回数	参加者	開催時期	対象	概要
2	地域福祉講座 「地域サロン交流会」	1回	15名	9月	地域サロン	地域サロン同士の横のつながりづくりを目的に開催。今年度は、「食」をテーマに、食の大切さを認識していただくとともに、食品取り扱いの留意点などを学ぶ。「食べることは 生きること」講師：高原加津子氏
3	ボランティア養成講座 「男塾 珈琲講座」	1回	15名	12月	過去の珈琲講座を受講した方、講座に興味のある方	男性がボランティア活動や地域参加するきっかけ作りを目的に、三年前よりシリーズ化して開催。今回で4回目。講師：喫茶カフェクラフト 奥村哲生氏
4	ボランティア入門講座 「災害に備えるボランティア講座」	1回	15名	2月	ボランティア活動に興味のある方	誰にとっても身近な課題として捉えられる「災害への備え」をテーマに開催。講師：NPO法人リエラ 松永謙矢氏
5	地域福祉講座 「サロンだよ！全員集合!!生涯現役でいられる居場所づくり」	1回	38名	3月	寄り合いの場	ボランティアが高齢化すると「何もできないから、サロンへはもう行かない」となりがちだが、年齢を重ねてもできることはある。「ボランティアは永遠に!」「生涯現役!」をキーワードに講座を開催。講師：m o t t o ひょうご 栗木剛氏
6	被災者支援ボランティア講座 「協働減災塾」	1回	12名	3月	被災者・被災地域支援を行う団体など	平常時及び防災時における各関係企業・団体間との連携・協働について考えること、ならびに団体間の横のつながり作りを目的として開催。講師：大分県社協 藤田亘宏氏 オフィス園崎 園崎秀治氏

10. その他社協事業

1) 福祉バス運行事業

地域福祉活動の研修、交流を図るための福祉バス「さつき号」の運行事業。

運行回数	延利用者数
71回	1,486人

2) 災害見舞金支給事業

市内に在住する世帯で、災害（火災、風水害等）により家屋が損害を受けた世帯に対して、見舞金を支給。

火災 1 件

3) 施設等管理運営事業

No	施設名	開館日数	延利用者数
1	中津市教育福祉センター	306日	23,183名
3	三光工芸センター	244日	309名
4	耶馬溪介護研修センター	294日	45名
5	すぱーく耶馬溪多目的広場	248日	501名
6	山国社会福祉センター	244日	1,694名

11. 各種共催・後援状況、視察受入、協力

1) 行事の共催及び後援状況

1	後援	R4. 7. 16	ワークショップ「もっともっと自然活動、自然遊びを!」	自然と遊ぼうありんこクラブ
2	後援	R4. 9. 17	2022年度 県北地区 福祉のしごと就職フェア	大分県社会福祉介護研修センター
3	後援	R4. 11. 20	アースデイ中津 2022	NPO法人 アースデイ中津
4	後援	2022. 12. 4	new社の声 朗読コンサート「出逢い」	朗読サークルnew社の声

2) 視察の受入れ、協力状況

No.	月日	県等	受入先	受入数	視察内容
1	R4. 9. 7	由布市	木戸浩久氏	1名	住民型有償サービスの立ち上げや実情等
2	R5. 2. 21	八代市	八代市校区福祉推進連絡協議会	20名	住民型有償サービスの立ち上げや社協及び地域との関わりについて